

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる—「人間性」を求める—

2

令和5年 No.1332



令和3年度 第74回山口県学校美術展 推奨作品
「キリンは大きいな！」

岩国市立そお小学校 2年（受賞時） 田村 かれいすけ 鎧守気

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 每月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



■やまぐちの偉人に学ぶ

公益財団法人松風会 評議員 陶山 具史
公益財団法人松風会 理事 友定 英章

■キラリ！高校生

山口県立岩国商業高等学校 3年 叶井 白菜
山口県立光高等学校 3年 杉原 豪
山口県立下松高等学校 3年 吉川 桜優
山口県立長府高等学校 3年 森脇 佳奈

■特色ある教育活動

美祢市立淳美小学校 校長 松尾 千秋

■地域活性化活動助成事業

周南市立櫛浜小学校 校長 山根 雅章
下関市立豊田下小学校 校長 上利 初代

■みんなちがってみんないい

特定非営利活動法人チャイルドハウス
ひなたぼっこ 代表 原田 幸子

あなたの
アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」3つのアクション

◎あいさつ 返事で明るいやまぐち

◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち

◎ゴミ 落書きのない美しいやまぐち

松陰先生の世界的・世界史的な意義



公益財団法人 松風会

評議員 陶山具史

吉田松陰先生（以下「先生」）は「諸君功業 僕忠義」と述べられた（安政六年正月十一日「某宛」）。始めそれを知った時、「忠義」というのは毛利の殿様に忠義を尽くすという意味だろうか、そうだとすればありふれた言葉であり、解せないことだと思った。その後、先生について学ぶにつれて、先生が仰った「忠義」とは、自分の志（思想信条）への忠義であること、そして「至誠にして動かざる者未だこれ有らざるなり」という信念に基いた先生の行動規範でもあったことが分かつてきた。

先生が生きられた時代は、歐米列強が世界各地に進出し、諸民族の独立を次々と奪い、ついにその勢力が日本に及んできた時代だったから、先生の志は日本の自立自存（尊皇攘夷）に焦点が当てられている。これを見れば、先生の言行は人間一人一人の自立自存（個人の尊嚴）を願うものだったと解することができよう。

先生の生涯はその言葉どおり先生の志に「忠義」であり、その後の時代の成り行きは先生の信念どおり「至誠にして動かざる者これ有らざるなり」だった。私はそのことを知って全く心底から驚きを禁じえなかつた。

先生の生涯は、「功業」などの世俗的な価値観からすれば蹉跌の連続であり功なき人生だったと言えよう。下田踏海といい江戸取調べといい、その目的を達成するためにはより効果的な無難な方法があつたのではないかと思わしめるところがある。しかし志への「忠義」

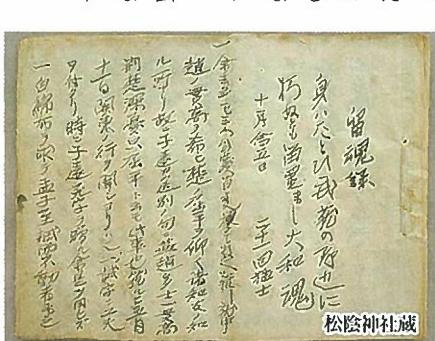
の観点からすれば、その言行は至誠をもつて忠義を尽くしており、間然するところがない。そして、その後の時代の展開は、先生の至誠に動かされた人々が身命を賭して新時代を切り開いていったものだった。先生が死の直前に記された留魂錄の次の二節を読んで感動しない者があるだろうか。

「吾れ行年三十、一事成ることなくして死し、禾稼（穀物）の未だ秀らず実らざるに似たれば惜しむべきに似たり。然れども義卿（松陰）の身を以て云へば、是れ亦秀実の時なり、何ぞ必ずしも哀しまん。」
「三十、四時已に備はり、亦秀で亦実る、其の粋（実の入らないモミ）たると其の粟たると吾が知る所に非ず。若し同志の士、其の微衷を憐み継紹の人あらば、乃ち後來の種子未だ絶えず、自ら禾稼の有年に恥ぢざるなり。同志其れ是れを考思せよ。」

先生がこのように記された直後に刑死され後、同志の士はその遺志を継続し、まさに後來の種子となつて維新の回天を成し遂げ、先生三十年の生涯を恥じざるものとしたのだつた。このような歴史の流れに鑑みると、私は先生の信念だった「至誠にして動かざる者とき、私は先生の信念だった「至誠にして動かざる者」という格言が真理述べていることを実感する。先生がその志に対して至誠を以て忠義を尽くされたこと、そのことが志と同じくする人々を動かし、ついには時代を動かしたのだった。しかも、この真理が、今日からわざか百五十年ほど前の身近かな時代の中に実際に姿を現していたこともまた感慨

と驚きを禁じ得ない。

先生が「尊皇攘夷」を志とされたことは、先生が日本文明の basic 理念である広い意味での家族主義を尊重されたこと意味していると考えられるが、詳しくは別機会に記したい。



松陰先生が示した内政の将来構想



公益財団法人 松風会
理事 友 定 英 章

吉田松陰東遊記念碑 昭和四十二年四月建設

このことは、「松陰と五龍—京師の一夜—」と題して岩国市内の校長を歴任された弘中道順氏によつて紹介されています。（昭和四十六年九月七日発行）

その後、安政三年九月二十二日には、毛利敬親公と吉川経幹領主が、萩の花江亭にて懇談しています。また、明治維新となつた明治元年六月九日には、吉川経幹が城主格となり、岩国領は正式に岩国藩と成り、「長編古詩」を詠つてから十七年後のことであります。



岩国市関戸公会堂敷地内

昨年の七月十七日（日）岩国市教育委員会主催の第

六五三回郷土史研究会において「松陰が今の岩国へ残した『足跡』」と題してお話をさせていただき、その『足跡』の五つの中の一つを紹介いたします。

松陰先生は、初めての江戸遊学の際、嘉永四年三月

九日の東遊日記に「防芸の境に至りて詩あり」とあります。この詩を、国境である小瀬川で「長編古詩」を詠つたことは、「内政の充実」を主張しようとしていることが伺えます。

長編古詩作成の理由

松陰先生は、九州遊学中の嘉永三年九月二十一日に豊嶽権平から「阿芙蓉集聞」一冊を借りて帰り、それを書き写しています。この書物は、アヘン戦争（一八四〇）（四二）に関する内容で、イギリスが中国を植民地化する経緯や状況が詳細に記載されています。

松陰先生は、アヘン戦争に関して「我が国が行うべき内政」について「隨筆」（嘉永三年）の中にその見解を述べています。〔吉田松陰全集〕第一巻貢二七五～二七六）。

長編古詩の解説

松陰先生は、二十二歳の嘉永四年三月五日、藩主毛

利敬親公の参勤交代に伴い、江戸遊学することになり、この時、松陰先生は正式な隨行ではなく「冷飯」という扱いで藩士（中谷忠威兵衛）同行する形で、行列には加わらず一足先に出発して江戸へ行くもので萩を出発しています。

（冷飯とはすなわち食客という立場）

三月九日、高森を出発し、欽明路峠を越えて錦川を渡り、更に関戸を過ぎて周防と芸州の境である小瀬川においてこの詩を詠んでいます。

この詩は、周防岩国領と萩藩との関係を主題とした

ものであり、元来、岩国領は、毛利元就の次男吉川元春を祖とし、萩藩の支藩に当ります。しかし、萩藩はこれを支藩と認めず、萩藩と岩国領は仲が良くない状態が続いています。そうした状況を念頭に置き、中国の故事と藩祖元就の遺訓を引用して詠つた詩であります。

その後の経緯

美哉山河是國宝 何以守之親与賢

この初段の句は、岩国の自然の美しさと明君賢臣

を褒め称えたものとして有名であり、関戸の碑に刻んであります。この後に続く句（三句有り）が岩国人にもほとんど承知されておらないよう思います。」と弘中道順氏は語っています。

終わりに、萩藩が一つとなり、明治維新という「将来構想」が着実に遂行されたことは、松陰先生の導きの結果であると思えます。

嘉永六年十二月七日の夜、松陰先生が第三回の東行途上、当時京都に遊学中の岩国領玉乃世履を寓居に訪ねています。萩藩士の山根文之允が仲介し、岩国領の水谷謙平ほか一名と共に夜明けまで国事を論じています。（松陰二十四歳）

キラリ！高校生



部活動の糧

山口県立吉田商業高等学校

3年 叶井 日菜

私がワープロ部に入部を決めた理由は、仲の良い友だちが入部することと、パソコンを打てるようになるとかっこいいと思ったからです。入る前は、和気あいあいとした雰囲気に楽しそうだと感じましたが、入ると活動中は無言で、一人ひとりが黙々とパソコンに向かって文字を打ち込んでいくことを知りました。最初は驚きましたが、そのメリハリのある雰囲気にも魅力を感じ、私自も集中してパソコンに向かって打ち込むようになりました。

ワープロの原稿は、4ページから

なり他の人がいつペーパーをめくつているのかが分かり、競争心を持ちながら取り組んでいました。競争心をもつて取り組むことで、より速度を意識したり、正確さを意識したりすることができ、上達がより早く実感できたように思います。

2年になって、はじめての全国大会出場が決まったことで、その後の練習では気を引き締めなおし、より記録を伸ばすために正確性を意識して取り組んでいました。しかし、途中から伸び悩みを感じ始め、自主練習にもあまり前向きに取り組めなくなりました。他の部員の記録が伸び、焦りもありました。しかし、時



間を区切って練習するように自分なりに工夫しました。時間制限をすることで、集中力を保ち、効率的に練習を行えるようになりました。

3年生で2回目の全国大会では、ただただ緊張したことが印象に残っています。最後の大会ということで今まで一番緊張し、その結果、タブミスが増え、今でも悔しさが残っています。しかし、団体で全国二位を受賞することができ、高校生活一番の思い出となりました。この部活動での経験はこれからも忘れずに活かしていきたいと思います。



感謝

山口県立光高等学校

3年 杉原 豪

私は光高校ヨット部の一員として活動できることを、心の底から誇りに思っています。入部した時に立てた高校での最終目標は、日本一を取ることでした。この目標を顧問の先生に伝えたときから、全国優勝への道を歩み始めていたと思います。振り返ると、優勝までの道のりは決して平坦ではなく波乱の日々でした。1年生の頃は新型コロナウイルス感染症の影響で部活動が制限されヨットに乗れない日々が続き、さらには追い打ちをかけるようにほとんどの大会が中止となりました。自分たちの実力を伸ばすことができない日々が続き、2年生の5月に初めて出場した全国大会では、全国優勝の壁の高さを痛感することとなりました。

その日から「僕ならできる、僕なら勝てる」と自分に言い聞かせながら練習に励みました。仲間と切磋琢磨しながら練習をした結果、3年の5月の全国大会では3位入賞をすることができ、全国でも戦えるという自信に変わっていました。

そして迎えた高校生最後のインターハイで優勝という目標を達成することができました。優勝が決まった瞬間、嬉しさと同時に最高の練習環境を提供してくださった顧問の先生、



楽しいときや辛いときを共に過ごした仲間、そして時に厳しく私に喝を入れ全力で部活動に取り組ませてくれた家族への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

部活動を引退して、改めて環境に恵まれていたと感じました。当たり前のようになっていった海上練習も、当たり前のように使っていた道具もすべて顧問の先生やヨット関係者のおかげでした。

3年間ヨット部で活動し、感謝の気持ちは大切さを改めて感じました。大学でも感謝の気持ちを忘れず、全国優勝を目指し精進していくたいと 思います。



寫真甲子園

私は高校で美術部に所属し、初めてカメラを触った日から今までの3年間で大きな成長を成し遂げ、全国で色々な賞も獲らせていただくことが出来ました。

この3年間で私が変わることができたのには2つのきっかけがあります。

一つ目は、顧問であつた藤井先生の支えがあつたことです。藤井先生は写真や部員に対して誰よりも熱心で、平日だけではなく土日祝日も休む暇なく様々な場所に撮影に連れて行つてくださいました。さらに、基礎的な知識から専門的な知識まで丁寧に教えてくださり、未熟な私の背中を押してくださいました。熱心だからこそその厳しいアドバイスが、私



写真は私を大きく変えた

山口県立下松高等学校

3年 吉川 桜優

いくのを感じるようになりました。一つ一つの関係を大切にすることであ自分とその人との間に関係性が生まれ、表情や目線、行動など、自分にしか撮ることのできない写真を撮ることができるようになりました。

このように、私が成長できたのは周りの人たちの支えがあったからだと思います。そのため、これまで支えてくださった方々への感謝を胸にコミニニケーションや人とつながりを大切にしながら、諦めずに自分の進路にも活かし、さらに成長していきたいです。

二つ目は、人とのつながりを大切にしたことです。藤井先生や美術部の先輩方は、常に人とのつながりを大切にしておられました。そんな方たちと共に撮影をすることで、次第に自分も多くの人々に話しかけるようになり、写真の撮影をきっかけにしてコミュニケーションをとることで、人とのつながりがどんどん広がって

の写真に対する見方だけでなく日々生活する中でのあらゆる視点や考え方までも一新させました。藤井先生との関わりから、一つ先のことを読んで行動をしたり、多面的かつ柔軟な考えを持つたりすることができるようになりました。



宏 森 脣 選 手

制覇」という目標
仲間の存在も大き
いです。私の
学年は、7人の
部員がいます。
やさしく頼れる
主将、みんなを
笑顔にするムー

いる時、顧問の先生が「今まで全国大会の試合競技で優勝したことがない」と言われた言葉で、急にスイッチが入りました。過去の先輩方が成し遂げられなかつたことに挑戦し、「私が、絶対に全国制覇をする」という意識を強くもつようになりました。

強豪校や強い先輩方との稽古を通して、負けることで自分の弱さを知りました。自分の弱さを克服するため、手に勝つことができ稽古の成果を感じられることが本当に楽しかったです。

私は、高校で初めてなきなたに出会いました。これまで、見たことも聞いたこともない競技でしたが、先輩方の迫力に圧倒され、新しい競技にチャレンジしたいという思いで入部することにしました。



全国制霸

山口県立長府高等学校

3年 森脇 佳奈

優勝したときは、「やったー!!」
という嬉しさでいっぱいでしたが、
それと同時に「全国制覇」に至るま
で本当にたくさんの方々に支えられ
て來たという感謝の気持ちで溢れま
した。これまで出会つてきたすべて
の人へ感謝しています。

ダメーかい、ブライドが高く負けず嫌いな子、秘めた闘争心をもつ子、コツコツ努力する子、凸凹の学年だけどかみ合えば最高な仲間です。技を開発したり、一緒に努力したり、時には気持ちをぶつけあつて、喧嘩したり、慰めあつたりなど、なぎなた部の仲間は、私にとつてかけがえのない存在です。



見事に復活しました

守ろう！大きなくすのきプロジェクト



美祢市立淳美小学校
校長 松尾千秋



工藤直子さん「おおきなくすのき」

本校は、平成18年に文科省の「コミュニケーションスクール推進事業調査研究校」に指定され、地域連携教育活動が活発に進められていきました。コロナ禍により活動が停滞していましたが、「地域の学校」として培ってきた絆を実感する出来事がありました。

本校の運動場の隅に、樹齢130年を超える「大きなくすのき」が立っています。夏には涼しい木陰をつくり、冬には白い雪をまとつて美しい姿を見せてくれていた学校のシンボルツリーに、令和3年の春、異変が起きました。わずか半月の間に、全ての葉が茶褐色になってしまったのです。子どもたちはもとより、地域の方々も「大きなくすのき」を心配して学校の坂を上つてこられました。山口県樹木医会に調査を依頼したところ、「アスファルト敷設等による生育環境の悪化と気象害による衰退」と診断されました。

児童や教職員は幹に生えた苔を取り除き、土壤改良や通気するための穴を掘りました。プロジェクトメンバーは作業車両を手配し、職場の仲間にも声を掛け、休日返上で砂利や土の除去や排水溝整備などをしてくれました。資材調達などを受け、学校・保護者・地域の有志で

「守ろう！大きなくすのきプロジェクト」を立ち上げることになりました。そして、5年児童も「大きなくすのきの再生」を総合的な学習のテーマに設定し、戸坂樹木医さんにご指導いただきながら、根や土壤の調査を始めました。

調査の結果、幹周辺のアスファルト・砂利・固結層の除去→通気孔の設置→土壤改良→排水溝整備→防護柵の設置→枯れた大枝の剪定等、多くの作業を行わなければならぬことが分かりました。

R4.8 夏のくすのき



R3.5.6 枯れたくすのき



R2.5 「大きなくすのき」と「子どもたち」



は教育後援会と教育委員会にご支援いただきました。令和3年11月下旬、「大きなくすのき」の下に、児童、地域、樹木医会の方々など大勢が集まり、根元の土壌改良剤を混ぜ込み、有孔管や竹筒を埋めて「こも」を敷き詰め、冬を乗り切るための作業を終えました。

令和4年の春、「大きなくすのき」に緑の若葉が芽吹きました。運動会前に枯れた枝の剪定を行ったため、樹形は変わりましたが、緑の葉が茂り、夏には涼しい木陰がよみがえりました。毎日、木を見上げて「がんばれ」と声を掛けた子どもたち。「自分たちの大切なものを守りたい。あのときやつておけばよかつたと後悔したくないから」と後悔したくないからでできることは何でもやります」と力を貸してくださいださったプロジェクトのメンバー。何度も足を運んで木の状態を確認し、ご指導くださった戸坂さんをはじめとする樹木医会の皆様。思いを同じくして人と人がつながる「地域の学校 淳美小学校」だからこそ実現できたプロジェクトでした。

R4.5 メンバーによる剪定作業

R3.11 土壤改良

R2 樹木医さんとの学習

自ら学び続ける児童の育成 ～対話活動を取り入れた授業づくり～



周南市立櫛浜小学校
校長 山根 雅章

本校は、周南市東南部にある太華山の麓に位置し、全校児童316名の中規模校である。学校教育目標「夢をもち、自ら学び、心豊かにたくましく生きる櫛浜っ子の育成」の実現に向け、「笑顔のあふれる櫛浜小学校」を合言葉に、教職員が一丸となって取り組んでいる。

さて、昨年度の研究では、子どもが「深い学び」をしている姿を、以下の3つに設定した。

- 各教科の見方・考え方を生かしながら意欲的に学習に向かう姿
- 他と比較して共通点・相違点を見い出したり、新しい考えや問い合わせを生み出したりする姿
- 日常生活や他の教科・学習と学んだことをつなげようとする姿

そして、学習過程を工夫することで、子どもたち一人ひとりが「深い学び」を実感することができる授業づくりを目指した。その結果、一定の成果は見られたが、対話活動の設定においては、課題が残った。

生き生きと活動し、主体的に学ぶ児童の育成



下関市立豊田下小学校
校長 上利 初代

下関市最高峰「華山(713m)」の麓にある本校は、全校児童38名の小規模校です。3年前から複式での学習指導が始まり、今年度は、3・4年生、5・6年生が複式で学んでいます。

変化の激しい社会においてもたくましく生き抜く人材を育てるため、今年度は、「児童の主体性を伸ばす」を合い言葉に、研究を進めています。

リーダー学習の充実

4つの学年で国語や算数を複式で学ぶ本校では、リーダー学習の充実は子どもたちに主体性を育む上でも、学力の定着においても重要です。そこで、授業づくり研究や講師による研修を積み重ね、「学びが深まる工夫」「子どもの言葉で進める授業」の実現に向けて取り組んでいます。研究の中で、子ども同士で学びを深めていくためには、「他者の意見を聞いて理解する力」「他者の意見と比べて自分の思いや考えを表現する力」の育成が大切であることを全教職員が再認識しました。

今後は、これらを視点において「豊田下の学びづくり」を進めながら、単式学級においてもリーダー

そこで、今年度は、研究仮説「子どもたちが『対話したい』という気持ちを高めて、活動に合った対話スキルを活用することができれば、主体的な対話活動が引き出され、学びを深めることができるだろう」を立て、授業づくりに取り組んでいる。以下は、仮説解明のための視点である。

- 学習課題設定の工夫
 - ・児童の興味 ・学習の見通し ・思考のズレ
- 対話活動の充実
 - ・支持的風土の醸成（ポジティブ行動支援）
 - ・自分の考えの見える化（タブレット活用）
 - ・対話スキルの向上（「話し方名人・聞き方名人」、「話型」の定着）
- 深い学びを見取る工夫
 - ・振り返りの視点 ・パターン化した振り返り

今後も、外部講師を招いての全校授業研究、一人一授業の実施等により、教員の授業力を高め、「自ら学び続ける児童の育成」に努めていきたい。



学習を充実させ、子どもたちの主体性を伸ばしてきます。

読書活動の推進

読書は言葉を学び表現力を高めるだけでなく、感性を磨き想像力を豊かなものにします。本校では、読書量は将来の自己実現にも影響するものとして重要視し、特に低学年段階からの読書の習慣化につながるよう、「読書が好き」な子どもを育てる取組を進めています。

自分が選んだ本を読む朝読書や地域のボランティアによる読み聞かせはもちろん、講師によるブックトークや図書室の環境整備など、子どもたちが「この本が読みたい」という気持ちになる工夫を模索しています。中でも、読書の幅を広げるため、全校縦割り班活動の中で行っている子どもたち同士がおすすめの本の一部を読み聞かせる活動は、ちょっととした緊張感を伴う楽しみなものになっています。

自ら本を手に取り、自らの成長に役立てができるよう、「子どもたちのそばに本」のある環境をつくっていきたいと考えています。



みんなちがってみんないい

令和4年3月、障害児と不登校児の支援活動を行つて
いる特定非営利活動法人チャイルドハウスひなたぼっこ
が第16回女性いきいき大賞を受賞。代表の原田幸子さん
にお話を伺いました。



特定非営利活動法人
チャイルドハウス
ひなたぼっこ

Q … 受賞までの経緯を教えてください。

当时、放課後児童教室では総合支援学校から2人の児童を受け入れていたものの、障害のあるお子さんは、なかなか周囲に理解されず、トラブルになることがあった。そこで、平成26年から、実家を改装し、ボランティアで数人の障害のあるお子さんを受け入れることにした。

平成29年、NPO法人を立ち上げ、放課後等デイサービスを行うようになつた。スタッフ、7・8名、障害児10名でスタート。更に翌30年からは不登校児も受け入れ、現在は障害児21名、不登校児11名の支援を行つてゐる。施設の広さの関係で、常時10名程度の支援を行つてゐる。



ひなたぼっこ「プレ

Q..受賞の理由を「自身ではどのように受け止めておられますか。

平成30年当時、本市には不登校児のための適応指導教室等がなかつた。そこで、他市の状況を調査した上で、市議会で不出席扱い等の提案を陳情した。現在では市との連携も少しずつ進み、市教育委員会の担当者との情報交換も行つてゐる。

子どもの支援に当たつては、本人とその保護者に寄り添つて話を聞くよう努めている。不登校の女児は、魚釣りに挑戦したいことを伝えてきたので、弁当と一緒につくり連れて行った。釣つた魚を捌いて唐揚げにできるようにして持つて帰らせた。

さらに、魚へんのつく漢字の学習も始めた。今は中学生になり、自主的にボランティア活動に参加し、子ども食堂を手伝つてゐる。社会で生きる術を見つけるよう自立支援をしている。

また、自閉症スペクトラムの男児は、最初、部屋の隅っこでفردをかぶつて動けない状態であつたが、大好きなプラレールで電車を動かして遊んでいるときは声を掛けないようにして自由に遊ばせていた。すると、遊びの場所を広げて行き、「土曜日だけでなく普通の日にも来てみたい」と申し出てきた。やりたいことに没頭させることで、心を開き、友だちに自分の遊びを見せたくなつたのだと思う。

こうした障害児や不登校児の居場所作りへの取組が評価されたのではないかかと思う。





Q：先生、保護者等に伝えたい」とせひんな」とですか。
学校の先生に
保護者の方に
子どもの側に寄り添つて一人ひとりの気持ちを十分くみ取つて、一人ひとり一人とかかわる時間を大切にして欲しい。また、子どもとの約束はきちんと守つて、できたところを認めることが大切。

それぞれの子どもの感じ方、考え方の違いを理解して欲しい。地域での活動の時、全体の場で、大声で叱責するとそれがずっとトラウマになる子もいるということを意識して、子どもの様子をあらかじめスタッフに聞いてみると等、優しい理解をお願いしたい。

Q・今後について

施設の関係で、午前中が不登校児、午後が障害児と分けて支援しているが、特に夏休みなど、一緒に遊ぶ場が少なく外遊びも十分にできないので、施設を拡張したいと考えている。

Q：今後について
施設の関係で、午前中が不登校児、午後が障害児と分けて支援しているが、特に夏休みなど、一緒に遊び場が少なく外遊びも十分にできないので、施設を拡張したいと考えている。

そこで、「日本財団 みらいの福祉施設建築プロジェクト」に社会福祉施設の建築助成を申請中。すでに土地と古民家を自費で購入済み。今の施設の近くに、「みんながうみてみんないい／ひとりぼっちにさせない施設」をコンセプトにした、思いつきり活動できる場をつくりたい。

また、この施設から卒業するときに、子どもから「働く

新しい施設の建設予定地 ↑
ここでは、自然に触れ合うことや
みんなと一緒に楽しむこと、自分
の世界に没頭り自分の時間を過ごす
ことができる。

くようになつたらひ
なたぼつこで働きた
い」と言われるの
がとても嬉しい。
将来は卒業生がこ
こで後輩の面倒を
みてくれるようにな
ることを期待してい
る。

8